

平成25年度 中小企業振興会議 第2回地域商業の魅力と活力の再生検討部会 議事要旨

日 時	平成26年1月29日(水) 午後2時から午後4時まで
場 所	クリエイション・コア東大阪 南館3階 技術交流室A
出席者	○中小企業振興会議委員 中嶋部会長、石田委員、大西委員、角井委員、寺浦委員、寺尾委員、平井委員、脇田委員 ○アドバイザー 株式会社ファミリーマート開発本部関西第3地区開発統括部開発1課上野氏・土井氏 ○事務局 米谷部次長、出口課長、名部主査、尾崎主任
案 件	商店街とコンビニとの連携のあり方について
議事要旨	<p>開会</p> <p>○商店街とコンビニとの連携について</p> <p>1 中嶋部会長より、本日の議題として商店街とコンビニと連携についてどのような連携ができるのか、また行政がするべき支援策はどのようなものを中心に議論していきたいとの説明あった。株式会社ファミリーマート開発本部関西第3地区開発統括部開発1課上野氏と土井氏にアドバイザーとしてコンビニが抱える課題とめざす役割や取組みについて説明していただき、平井委員から布施地域でのコンビニの商店街活動への参加状況について説明をもらった後、意見交換を行った。</p> <p>2 コンビニが抱える課題とめざす役割や取組みについては以下のとおり コンビニは昨年度5万店舗を超え、ファミリーマートも平成25年10月15日に国内1万店舗を達成しています。台湾、韓国、中国、アメリカ、タイ、ベトナム、インド、フィリピンで日本発のコンビニとして世界8地域、22,181店舗を展開させていただいています。コンビニ業界の売上高は9.5兆円規模となっています。東大阪市には201店舗のコンビニがあり、ファミリーマートは58店舗となっております。東日本大震災をきっかけにコンビニに対する見直しがあり、10代から70代までのお客様にご利用いただいています。ファミリーマートでは「あなたとコンビニにファミリーマート」をスローガンにし、距離的な利便性と心理的な利便性を出店計画の中でさせていただいている。買物しやすいまち、魅力あるまちに出店を通して店舗も取り組めたらと思う。 1店舗あたり、約15人のアルバイトを雇用し、東大阪市内には約200店舗ある為3,000人の雇用があります。ファミリーマートに置き換えますと58店舗で、約900人のアルバイトの雇用があります。また店長、マネージャーと独立してやられる方もいるので、弊社だけでも1,000人ほどおります。商売を始めたいという方に2店舗3店舗つながって閉鎖しているところを弊社の方で借上げて新たに加盟者をつけて運営をつながっていく形でいろいろな貢献ができるのではと考えています。</p> <p>3 布施地域での商店街とコンビニの連携の概要は以下のとおり 布施の商店街にはコンビニが4店舗あります。夜市のイベントの時、積極的に協力させていただいてありがたいが、それ以外については協力が薄い。昔は、何かをお願いにいても、その返答に2~3カ月かかり、返事が返ってきたころには事は終わっている。ファミリーマートさんはイベントに積極的に協力してもらっているし、それ以外のことでもご協力いただいている。しかし、これからは商店街の中は経費もかかるわりに、客単価は低い、商店街の中へ積極的に出店という形にはなりにくいのではないか。コンビニと共存共栄できたら我々としたら一番いい。</p> <p>4 主な質疑は以下のとおり (委員) 商店街等と連携している事例はありますか。 → (ファミリーマート) 各地域にあった活動は個々にあります。 (委員) オーナーさんは商店街でお店を構えていた方がされるケースはありますか。 → (ファミリーマート) 酒屋さんが運営される形が多かったが、他から出店に来られる方もいる。 (委員) 客層のデータはどのように解析されているのか。地域の特産品づくりみたいことに結び付けられないのか。 → (ファミリーマート) 客層データは、POSシステムで瞬時にわかるようになっていきます。よく来店される方に割引券の発行等接客プラスワンに活用させていただいている。南大阪の地域で、地元と連携して商品化したお弁当、カップ麺事例がある。地域の特産品づくりをすすめている。 (委員) 宅配ビジネスについては。 → (ファミリーマート) 宅配ビジネスは試験導入段階です。 (委員) 出店は距離とかで決めていますか。 → (ファミリーマート) どれだけマーケット力があるかで判断します。 (委員) 2店舗以上のお店を経営されている方はどれくらいいますか。 → (ファミリーマート) 東大阪には約半分の方が2店舗以上経営しています。 (委員) 地産地消の中で、供給ルートについてはどのように考えているのか。例えば商店街の八百屋から野菜を仕入れても構わないか。 → (ファミリーマート) 食材については、ファミリーマートの看板を通じて販売しているので、本部で</p>

の検査が必要。食材については、できる限り近くのところから仕入れている。東大阪市内で賄えるのであれば、将来的に供給いただくこともありえる。

(委員) コンビニの動きで目につくのが、駅の売店がコンビニに変わってきている。収益はどうか。
→ (ファミリーマート) 我々の仕組みを使って収益をあげていただいでご利用いただければと思っている。売店は乗降客数などによって高低あるのでトータルのビジネスとして考えています。

(ファミリーマート) 提案ですが、河内長野の方で、まちの電気屋さんファミリーマートが同じ敷地で出店させていただいたケースがあります。街の何かとコンビニが連携できればと思います。

→ (委員) それはいい案です。布施駅周辺はまちの電気さんがなくなった。まちの電気さんと併設できれば非常に便利。

(委員) 撤退についてはどうですか。

→ (ファミリーマート) 東大阪では2%くらい。昨年3月から1月は閉鎖の店舗はゼロです。

(委員) 撤退するときに、必要だからやめないでほしいと言われたら撤退をやめることはありますか。

→ (ファミリーマート) そのあたりはビジネス的に判断します。1カ月前にお客様に告知しています。

(委員) カレーパンや東大阪の商品をコンビニで売ったりできるのでしょうか。

→ (ファミリーマート) 可能性はいくらでもある。商品開発について話をする場はいくらでも設けることができます。

(委員) 他市のコンビニエンスと地域の事例についてご紹介いただけますか。

→ (ファミリーマート) 松原市のコンビニエンスでは店舗にAEDの設置という取り組みをさせていただいています。

(委員) 地域との共生について、このように付き合うようにとか方針みたいなのはあるのですか。

→ 出店の中で、地域の責任者の判断でさせていただいている。本部と加盟店が対等の関係ですので、本部からはアドバイスはできますが強制は難しい。

5 主な意見は以下のとおり

(委員) 商店街活動の参加については、店舗に決裁できる経営者がいるとお願いごと等の返事が早い。

(委員) 大型店とかと同じで、撤退対策、ケアもいるのではないか。

(委員) 過去のコンビニは小さかったが、今のコンビニは敷地が300坪、400坪ある。

(委員) コンビニ同士の競争で商店街の周囲の店舗が巻き込まれる。出店はいいが、撤退される時は元にもどして欲しい。

(委員) コンビニの経営は楽なように見えるが、人の3倍は働かないといけない。

(委員) フランチャイズの仕組みをほんとに理解してからオーナーさんははじめないといけない。

(委員) 市役所からコンビニの出退店について、コンビニ側から市役所に情報提供してもらってはどうか。

(委員) コンビニ以外の物販、外食等郊外店舗全体についても市役所は把握しないとけないのでは。

(委員) 出退店、商品開発、防犯面、このあたりを含めてきっかけづくりとして連携が必要なのではないか。

6 意見まとめ

コンビニは、コミュニティの中で欠かすことのできないものとなっているのが現状。例えば、電気店がなくなると困るが、代替りのものがある。しかし、コンビニがなくなると、公共料金の支払いができなくなったり、食べ物を買えなくなるあたりがインフラということになる。コンビニと地域の議論の場、出退店、商品開発などについて包括提携まで深めていければ、包括提携によって、東大阪市がプラスになる、地域商業がプラスになる絵まで描くことができればと思います。

○中間報告について

平成26年3月12日に開催される中間報告案について中嶋部会長より以下のとおり説明があり、了承された。

(商店街と大型店との連携について)

布施の地域で商店街と大型店の連携ができたのは、布施をよくするために大型店も商店街も一緒に議論する「場」ができていたことが非常に大きかった。また連携について、行政が支援していくこととすれば、大型店と商店街が議論できる場をつくる。そして、良いイベントや活動に対しては手厚くバックアップしていく。集積地内の大型店の退店情報をいち早く入手して退店しないように努めていく。

(商店街とコンビニとの連携について)

上記、6意見まとめのとおり

閉会

配布資料

資料1 コンビニエンスストアの状況について

資料2 (参考) 第1回地域商業の魅力と活力の再生検討部会 議事要旨

資料3 (参考) 部会委員名簿(平成26年1月29日現在)